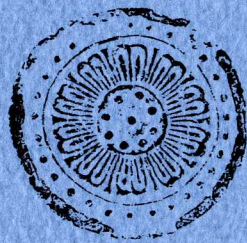


大分市歴史資料館年報

(平成16年度)



2005

目次

展 示	1
特集展示 テーマ展示 特別展示	
講演記録	5
資料調査	13
資料収集	14
教育普及活動	17
平成16年度大分市歴史資料館研修報告	22
植田中学校教諭 高橋 修一	
図 書	24
資料館利用状況	30
管理及び運営	32
歴史資料館協議会 組織・事務分掌・職員・歳入歳出 施設管理業務の内容	
施設の概要	34
条例・規則	36
日 記 抄	42
利用案内	44

展 示

(1)特集展示

美術館、文化財課、歴史資料館連携事業《南
蛮憧憬ーザビエル・宗麟、そして府内ー》の一環
として常設展示室2の中世・近世コーナーを使用
して特集展示「府内と宗麟の時代」を開催した。
会期 9月17日(金)～10月17日(日) 26日間
入館者数 2,519人

構成と主な展示品

1) 大友氏と宗麟

源頼朝書状／大友親著画像(複製)／大友宗麟
画像(複製)／大友義鑑書状／大友宗麟書状

2) ひろまるキリスト教、知れわたる府内

『東洋の使徒フランシスコ・ザビエルの生涯』
／『イエズス会宣教師書簡集』／オルテリウス
東インド諸島図／ティセラ 日本図

3) 国際貿易都市府内

府内古図／大友館・府内町跡出土遺物／華南三
彩貼花唐草文五耳壺

(2)テーマ展示

本年度は以下の内容のテーマ展示を開催した。

第1回 東南アジアのやきもの

ー海のシルクロードー

会期 4月24日(土)～6月27日(日) 55日間
入館者数3,742人
南蛮貿易や朱印船貿易などをとおして輸入さ
れた15～17世紀の東南アジアの焼き物を中心に
展示し、海を介した焼き物の交流の歴史もあわ
せて紹介した。

主な展示品 クメール陶器 黒褐釉象形壺／サ
ンカンベン窯 青磁印花文壺／スコタイ窯
鉄絵魚文盤／スワンカロック窯 青磁鉄絵魚文
盤／ミャンマー陶器 緑彩花文盤／ベトナム
青花波濤文玉壺春

第2回 昔のくらし2

会期 7月3日(土)～10月17日(日) 91日間
入館者数 5,750人

ひと昔前のなつかしい生活道具を中心に、写
真などの資料をまじえ、昭和のくらしや大分の
様子を紹介。特に今回は、映画やラジオ・蓄音
機といった娯楽や遊びに焦点をあてて展示した。
主な展示品 喜楽館映画宣伝用ポスター／真空
管ラジオ／蝋管式蓄音機／卓上型円盤式蓄音機
／メンコ／白黒テレビ／戦災で消えた大分市中
心部復元絵図

第3回 近代大分の風景

会期 12月4日(土)～1月30日(日) 43日間
入館者数 2,418人
明治時代から昭和時代までの県都大分の発展
の歴史を、絵地図や写真・絵はがきなどの資料
で紹介した。

主な展示品 明治10年代大分町市街地図／大正
6年大分市街新地図／昭和8年大分市街新地図
／昭和25年大分市鳥瞰図／昭和36年頃大分鶴崎
臨海工業地帯地図／大正初期大分写真帖／大正
時代初期の二十三銀行本店写真／大正～昭和時
代 大分名所絵はがき

第4回 松平氏と大分

会期 2月5日(土)～4月3日(日) 54日間
入館者数 2,356人
松平忠直をはじめ、府内藩主大給松平家、杵
築藩主能見松平家の徳川氏ゆかりの豊後三松平
氏をとりあげ、その歴史の一端を遺品や絵図な
どで紹介した。

主な展示品 大給松平氏伝来 紺糸威五枚胴具
足／府内藩主松平近傳作 児島高德騎馬図／能
見松平氏家紋 雪笹紋入り食籠／6代将軍徳川
家宣朱印状写／杵築城下町絵図／松平忠直画像
(複製)／松平忠直愛用 葵紋入梨子地卍文蒔絵
鐙／伝松平忠直寄進 熊野権現縁起絵巻

資料収集

資料収集委員会

1. 会議
開催日 平成17年3月13日
場所 歴史資料館会議室
議題 (1)会長・副会長の改選
(2)購入予定資料の審議
(3)その他(寄贈・寄託資料等について)
2. 委員名簿

氏名	役職	分野
加藤 知弘	大分大学名誉教授	日本海外交流史
後藤 宗俊	別府大学文学部教授	日本考古学
菊竹 淳一	九州大学名誉教授 九州産業大学芸術学部教授	日本美術史
豊田 寛三	大分大学理事 教育福祉科学部教授	日本近世史
段上 達雄	別府大学文学部教授	日本民俗学

寄贈資料

- (1)茶つき籠1点、米漏斗1点、背負い籠1点
福田 和夫氏
- (2)歩兵72連隊等記念盃11点、「かもめ印マジック洗濯機」1点
後藤 恭宏氏
- (3)団扇(革製)1点
後藤はよ子氏
- (4)近衛兵使用軍服一式
山口 智子氏
- (5)軍服(夏服上着)1点、軍服(上下揃)2点、婚礼布団2点
佐志原 圭子氏
- (6)日野家文書(21点)、衣冠一式ほか
日野 直子氏
- (7)『日本画大成』(19冊)、『歴史写真』、使用済み砲弾2点
藤野 清氏
- (8)『支那事変と無敵皇軍』(写真帳)1冊
八坂 敏男氏
- (9)地券5点
竹内 豊氏
- (10)鉄絵魚文盤1点、鉄絵合子1点、青花麒麟絵皿1点
江崎 武氏
- (11)明治26年大分大水害写真
児玉 昭氏
- (12)軍人手帳1冊
佐々木 公義氏
- (13)台手動はかり1点
川島 健資氏

寄託資料

- (1)華南三彩貼花牡丹唐草文五耳壺1点
清水 ヨウ氏

購入資料

- (1)大友宗麟書状 1幅
本紙 縦12.9×横49.8cm
永禄12(1569)年8月7日の立花城表遠天原(現福岡市東区浜男付近)での戦いにおける、板井左京入道の働きに対する宗麟の感状。本書状は、戸次鑑連の加勢として田北紹鉄(鑑重)・鎮周親子より差遣わされ、上記戦いで板井左京入道の被官一人が疵を負うほどの奮戦を行ったことに対して同年8月16日に出されている。上記戦いでは五条鎮定、田原親宏の家中が行動していることが、『大分県先哲叢書 大友宗麟資料集 第4巻』に収められている史料等からうかがえるが、この新出の史料によって、その大友軍の中心に戸次鑑連がおり、板井氏家中の加勢の事実が明らかとなるなど、貴重な内容が記されている。
- (2)青磁牡丹唐草文瓶 1点
高さ61.0cm 口径23.0cm 底径15.5cm 胴部最大径30.0cm
大きく開いた口縁に長い頸、卵形の胴とその中央部に一条の稜をめぐらした、独特の器形の大瓶。頸部に蕉葉文、胴部に牡丹唐草文、裾部に鎬蓮弁文を浮き彫りにし、全体に青緑色の釉薬が施されている。その類品に「景泰伍年」(1454)の銘が刻まれる英国デビット・コレクションや首里城京の内出土品などがある。本花瓶も、これに前後する明時代中期の中国龍泉窯系の窯で焼成され、寺社宗廟などの荘厳品として日本国内に輸入されたもの(伝世品)と考えられる。市内では、由原八幡宮には同時期の龍泉窯系の青磁円環耳付大花瓶等が伝えられ、また多くの中国青磁が出土しており、「天下十刹」の一つに数えられた萬寿寺や九州最大の規模を誇った大友館の室内荘厳品の一つとして、本品

と同類のものが請求された可能性は高いと考えられる。

- (3)『鉄道院 大分線写真帖』 1冊
縦15.3cm×横22.5cm

中津の山中写真館が現日豊本線の景観や工事風景を撮影し刊行した写真帖。①中津建設事務所、②中津建設事務所員、③駅館川橋梁、④長洲水道橋、⑤宇佐停車場、⑥立石堅道西口ニ於ケル立石詰所員、⑦第一八阪川橋梁、⑧ニノ尾堅道東口、⑨陣田我王堅道西口ニ於ケル藤原詰所員、⑩陣田我王堅道西口遠望、⑪赤松橋ヨリ陣田我王山ヲ望ム、⑫第四八阪川橋梁、⑬八阪村竹ノ内陸橋、⑭日出詰所員、⑮日出港ニ於ケル地質試験、⑯日出停車場ヨリ港口ヲ望ム、⑰豊岡町江上川橋梁工事、⑱古市堅道ニ於ケル御越詰所員、⑲別府詰所員、⑳濱脇東山大切り取(高百八十呎)、㉑高崎山麓海岸石垣工事、㉒仏崎堅道西口工事、㉓西大分詰所、㉔菰苈港ニ於ケル西大分詰所員の全24枚の写真が収められ、主に宇佐一大分間の鉄道路線延長の工事風景が撮影されている。本写真帖の刊行年は未詳だが、表題にある鉄道院(鉄道国有法にもとづく私鉄買収が完了した明治41年12月に内閣総理大臣の直轄官庁として設置される)中津建設事務所が工事を進めた明治41年から途中事務所が大分に移転する同44年(1911)6月の間に出されたものとみられる。明治44年11月の大分駅開業にいたる鉄道史がうかがえる貴重な写真資料である。

- (4)大分市新地図(大正10年刊) 1点
縦79.0cm×横54.0cm

大正10年2月に大分市竹町の甲斐書店より発行された縮尺4000分の1の市内図。地図の右下には別府町図も掲載されている。地図発行の翌月には、大分市はじまって以来の大イベント(総入場者数98万人余)となり、その後の大分市発展の起爆剤ともなった第14回九州沖縄八県連合共進会が開催(第1会場一現城址公園、第2会場一新川海岸)されており、その開催直前の市街地及び近郊の状況がわかる格好の地図である。

- (5)大分市鳥瞰図(大正14年刊) 1点
縦39.0cm×横54.0cm

大正14年時点の大分市域を鳥瞰的に捉えてあらわした地図。主要な公共施設や学校・病院・工場・神社などの建物が立体的に図示され、これらの位置関係を通して市街地全体の状況が理解しやすく工夫されている。また、裏には「大分市著名銀行会社商店紹介」も詳細な建物図(表の地図にはその位置が表記)とともに掲載されている。この地図には本来下段に「別府市鳥瞰図」なるものが掲載されていたが、現状は二つに分断されて上段の「大分市鳥瞰図」のみとなっている。

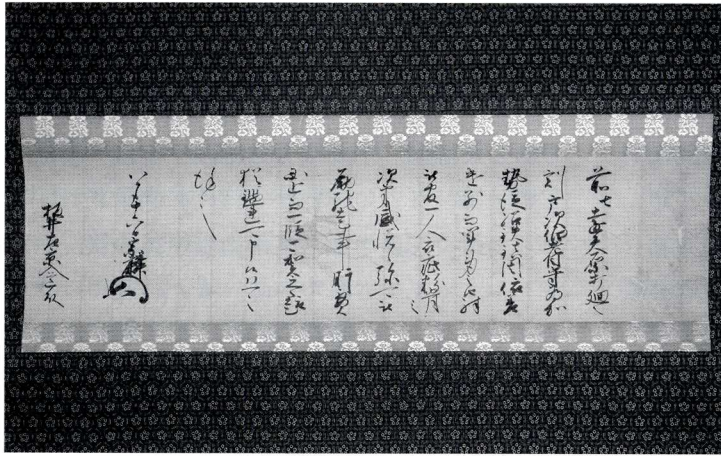
- (6)大分市内図(昭和27年刊) 1点
縦53.0cm×横76.0cm

昭和27年の大分市内図。裏には中島製粉機製作所をはじめ各種商店や会社の紹介欄(①～30番まで)と、大分市概要(昭和27年7月の総世帯数及び総人口、産業及び商業、工場、交通、教育、市内の名勝旧跡案内等)が掲載されている。表の市内図には、上記商店・会社の位置が数字で示され、また大分交通の路線および沿線観光案内図、大分バスの路線および沿線観光案内図が載せられるなど、広告も兼ねた内容となっている。ちなみに、旧航空隊跡地に新校舎を建設し、昭和27年3月に移転した大分舞鶴高校はまだ記載されていない。

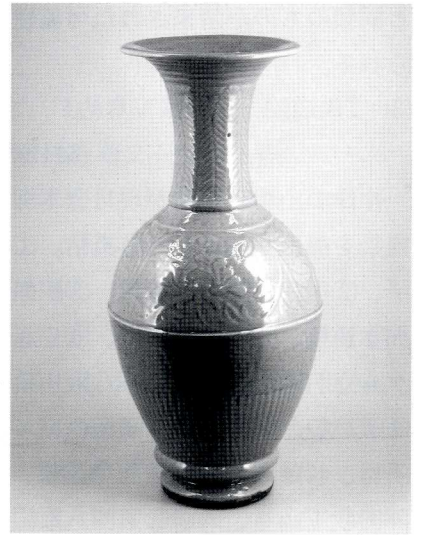
複製品製作

- (1)立花道雪画像
(原本 柳川市 福厳寺蔵)
本年度は、大友宗麟を支え、臼杵鑑速・吉弘鑑理と共に「三老」の一人に数えられた戸次鑑連の画像(寛永元・1624年作)の製作を行なった。

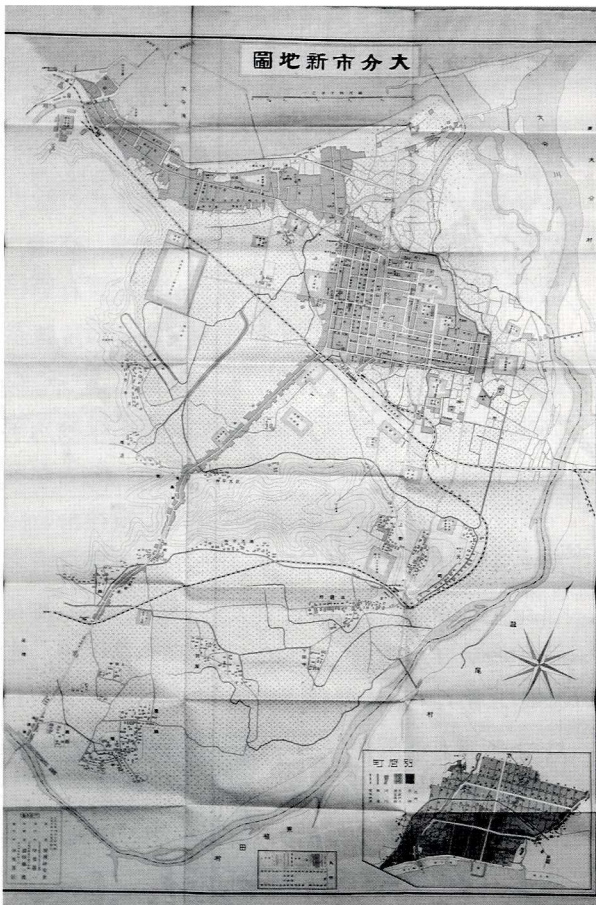




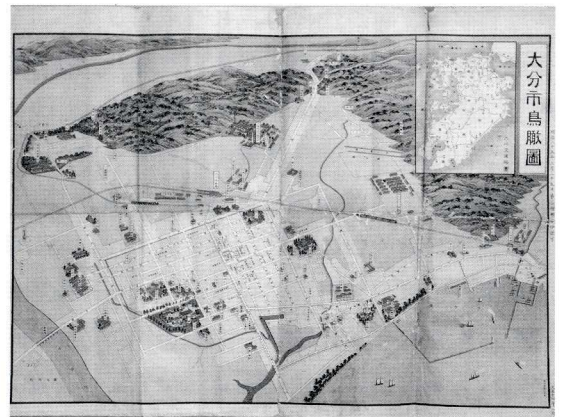
(1) 大友宗麟書状



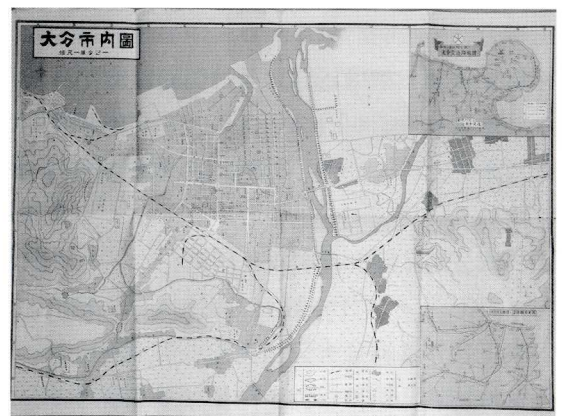
(2) 青磁牡丹唐草文瓶



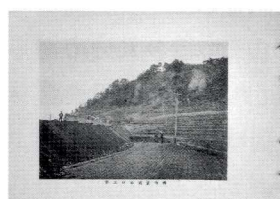
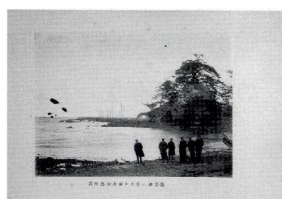
(4) 大分市新地図（大正10年刊）



(5) 大分市鳥瞰図（大正14年刊）



(6) 大分市内図（昭和27年刊）



(3) 『鉄道院 大分線写真帖』

平成16年度大分市歴史資料館研修報告

研修生 大分市立植田中学校
教諭 高橋 修一

1. 研究主題

子どもの興味を引き出し、日頃の学習内容と関わる地域史資料作りと資料館の活用法

2. 研究のねらい

大分市に住みながら、ザビエルの名前は知っていても駅前の銅像が大友宗麟であることや、中世の府内（大分市）が世界中に知られた国際都市だったことをあまり生徒は知らない。そのため郷土に対する関心や誇りも感じることなく、中学校を卒業してしまう生徒も少なくない。また、授業での歴史学習が中央史にかたより、日常の生活の場との関連で学習する機会が少ないため、歴史学習が生徒の身近な生活からさらに遠ざかり、実感の乏しい抽象的な学習に陥りがちで、学習意欲を失わせる一因となっていると思われる。

そこで、地域史学習を日頃の学習活動に組み込み、中央史と地域史のかかわりの中で歴史を概念的に捉えられる力をつけた生徒の育成をめざす単元の指導構想、および地域の歴史に触れ体験できるフィールドワークを主体とした「地域の学習」単元の教師用手引き書作りをめざした。このことを通じて郷土の歴史を理解し、郷土に誇りを持ち歴史を学び続ける生徒を育てたい。

3. 研究内容

(1)地域史学習資料開発

①地域史の資料化

大友氏を核とした中世学習の単元構成とワークシート作成

②「地域の学習」教師用指導資料作成

「フィールドワークのすすめ」

③小学校での学習を生かした中学校社会科指導

④資料館の活用法

(2)専門性を高める研修

①館内研修

- ・土器実測などの実習
- ・体験活動の支援など

②館外研修

- ・現地調査、見学による教材化など

4. 研究の成果と今後の課題

(1)地域史教材の開発と指導資料の作成

①地域史の資料化

第4章近世日本「1. ヨーロッパ人との出会いと全国統一」（東京書籍）の単位において、大友氏の興亡をまじえながら社会の動きを捉える、次のような単元構成を試みることができた。

ア、「親治、義長、義鑑」の領国経営

イ、ヨーロッパ人来航の背景

ウ、義鎮（宗麟）と府内の町

エ、織田・豊臣氏による統一事業と大友氏

オ、一本の竿が世の中を変える（太閤検地と義統）

カ、戦国大名としての宗麟の評価

②「地域の歴史」指導資料作り

今回の学習指導要領の改訂で新たな項目として、歴史を学ぶ意欲を高めさせることや歴史の学び方を身につけさせることを重視し、「歴史の流れと地域の歴史」が設定された。

そこで、生徒自身がフィールドワークの計画を立て、実際に現地に足を運ぶことができる教材となるよう心がけた。自分自身も、教材化のため現地へ足を運び、地域の人から聞き取りをするなど、指導に役立つ貴重な体験をすることができた。

③小学校での学習を生かした中学校社会科指導

今日までの学習指導要領における「社会科学学習および地域史学習の扱い」について見直しを行った。その過程で小・中学校それぞれの社会科学学習の目標、指導内容（計画）の共通点や特色、相違をまとめ、中学校入学時の既習内容の把握に役立てる一覧表を作ることができた。また、地域史学習の取扱についてその流れを学び確認することができた。これらの作業により中学校での指導内容がより明確にできた。

④資料館活用法の研究

資料館で追求学習をする手引きとして、

資料館の常設展示内容と、教科書での学習内容をリンクさせた、資料館でできる追求学習の課題と教師向け解説を作成できた。

(2)専門性を高めるための研修

①館内研修

毎週土曜日にふるさと歴史講座として「歴史」「考古」「民俗・文化史」「古文書」の4コースで講座が行われている。どの講座も現在第一線で実践されている講師の方々と構成されており、非常に興味深かったし、授業作りのよいヒントとなった。講座内容で興味を持った所をさらに調べることで力にもなった。

土器の実測や拓本取り、縄文土器露天焼きなどの実習は、今後、中学校現場での実際の指導に役立つ経験となった。また、火起こし体験活動支援や火きり臼や杵の製作を通じて、火きり臼の厚さと着火しやすさなどのデータも資料化することができた。

体験活動では、おもに市内の小学3年生と6年生の体験活動を支援することで、

指導力を高める場を得るとともに多くの小学生とふれ合うことができた。6年生が中学生として入学してきたときに、この経験が大いに役立つと思う。また、それぞれの学校ですばらしい実践を受けている児童も多く、また、引率教師の指導のようすから学ぶことも多かった。

親子歴史講座では、幅広い年齢層の子どもたちにわかりやすく話したり、実際の作業の場では、どのような支援したりすれば効果的かなど指導法の改善を積むとともに、指導内容に「満足してもらえるか」という視点で活動を支援できたことも貴重な体験であった。

特別展、テーマ展を見学したり運営のよ

うすに触れたりすることで、企画のあり方や日頃自分が触れなかった分野へ目を広げることができた。展示内容も地域に密着しており、授業作りに参考になることも多くその一部は教材化することができた。

②館外研修

他の博物館や史跡を訪ねる機会を得たことであらためて、現地に足を運び自分の目で取材、確かめる大切さを実感するとともに「地域の歴史」に関する学習資料を作り上げることができた。また、発掘現場を訪ねることで現在の発掘の成果を目の当たりにできた。

(3)今後の課題

「郷土を大切にし地域史を学ぶ喜びを持つ生徒」「地域史と中央史の関連で歴史をとらえる視点を身に付けた生徒」そして「歴史に興味を持ち学び続ける生徒」の育成は大きな目標であり、あこがれでもある。今回この機会を与えていただき、現場の限られた指導時間内で地域史の学習をテーマ学習に終わらせず、継続的な指導計画書作成をめざし1年間取り組んできた。その成果として、中世のひと単元といくつかの一時間毎の指導資料が今やっと姿を現した段階である。作成資料の中にはテーマ学習の域を超えていない部分もまだまだみられる。今後中学校現場で実践を重ねる中で、多くの先生よりご意見をいただき、内容の充実とともに指導法の改善も加えた、指導資料作りを続けていきたい。

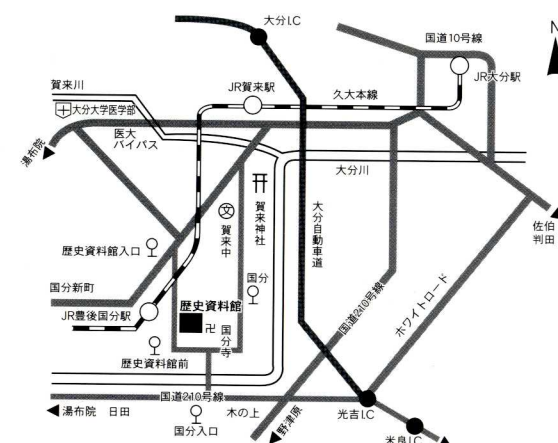
一年間地域の歴史に囲まれて、自分自身が学ぶ喜びを味わうことができた。すばらしい市立の資料館を持ち、資料館が全市社会科教師の情報発信基地と、情報集約基地になる機能をもちながら、教育現場の教師が十分に資料館の価値と機能を生かし切れていない現状がある。今後、現場での資料館活用の啓発・支援の活動の一端でも担え、役割を果たせればと思う。



昔の道具体験

利 用 案 内

- 開館時間 午前 9 時～午後 5 時
(入館は午後 4 時30分まで)
- 休 館 日 月曜日
祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
年末年始(12月28日～1月 4 日)
- 観 覧 料 大 人200円(団体150円)
高校生100円(団体 50円)
小・中学生は無料
*団体は20名以上
*特別展開催中は別料金となる場合があります。
- 交通機関 J R 久大本線
○豊後国分駅下車徒歩 2 分
大分バス
○歴史資料館前下車徒歩 1 分
国分新町・向原・今畑・中村・竜原ゆき(全て賀来経由)



大分市歴史資料館年報

2005

発行日 平成 17 年 7 月 20 日
編集・発行 大分市歴史資料館
〒870-0864 大分市大字国分960番地の1
TEL(097)549-0880 FAX(097)549-5766